14.海の豊かさを守ろう

湘南藤沢キャンパス（SFC）において、サントリーグループと協働し、「ボトルtoボトル」水平リサイクルを開始

湘南藤沢キャンパス（SFC）は、サントリーグループと連携し、キャンパス内で回収された使用済みペットボトルを新たなペットボトルへと再生する「ボトルtoボトル」水平リサイクルを、2025年9月より開始しました。本取り組みは、使用済み製品を同一種類の製品へと再資源化するもので、慶應義塾内では初の試みとなります。

今回の連携は、「リサイクル適性が高く、再資源化の仕組みが整っているペットボトルを資源として循環させ、持続可能な社会の実現に貢献したい」という両者の思いが一致したことにより実現しました。

SFCでは、2022年11月に2030年に向けたカーボンニュートラル目標を発表し、自然エネルギー大学リーグに加盟しました。さらに2023年からは、サステイナブルキャンパスプログラムを開始し、キャンパスの持続可能性向上をサステナブルな地域づくりへとつなげることを目指してきました。同プログラムは、総合政策学部、環境情報学部、看護医療学部、政策・メディア研究科、健康マネジメント研究科、湘南藤沢中等部・高等部が連携して進める教育研究プロジェクトであり、「カーボンニュートラル」、「資源循環」、「自然環境」、「健康と地域」、「食と農」、「スチューデントビルドキャンパス※」、「高等部における環境プロジェクト」の7つで構成されています。あわせて、2023年以降はキャンパス内の分別方法と分別ボックスのデザインを一新し、学生主体で分別率向上に取り組んできました。特にペットボトルについては、キャップ・ラベル・ボトル本体の3分別を徹底し、資源としての品質向上を図っています。

一方、サントリーグループは、2012年に国内清涼飲料業界で初めてリサイクル素材100%のペットボトルを導入し、2030年までにペットボトルの「100%サステナブル化」を達成することを目指して、水平リサイクルの実用化を進めてきました。

今回の取り組みにより、SFCで丁寧に分別されたペットボトルの価値を活かし、より高度な資源循環を実現します。今後は、学生による意識啓発や行動変容の促進を通じて分別率のさらなる向上を図るとともに、キャンパスの持続可能性向上、地域との連携による社会課題解決に取り組んでいきます。



※学生・教職員・卒業生が協働し創り上げる滞在型教育・研究施設

信濃町メディアセンター（図書館）にウォーターサーバーを設置

信濃町キャンパスのメディアセンターでは、学生の多様な「学び」をサポートする環境整備の一環として、2026年3月、利用者からの要望が多かったウォーターサーバーを1階カウンター前に設置しました。マイボトルを持参すれば誰でも気軽に給水でき、館内全エリアへ「密閉可能な容器に入った飲物」として持ち込むことが可能です。マイボトルの利用を促進することで、使い捨てペットボトル等の削減にもつながる取り組みです。

慶應義塾では、今後も全キャンパスでのウォーターサーバーの増設や配置見直しを進めるとともに、認知度や使用率の向上に取り組んでいきます。

塾生会議プロジェクトの活動

塾生会議から提出された提言の中から審査を経て採択されたものは、学生が主体となる「塾生会議プロジェクト」として具体化され、様々な活動へと発展していきます。

コンタクトケース回収プロジェクト

SDGsゴール12「つくる責任・つかう責任」とゴール14「海の豊かさを守ろう」を実現し、2030年までにプラスチックごみを20%削減することを目指すプロジェクトです。独自のアンケート調査から、学生の約60%が使用していると想定されるコンタクトレンズに着目し、コンタクト空ケース回収ボックスを設置し、常時回収を可能にしました。

昨年度は日吉キャンパスのみに設置していた回収ボックスを、2025年度は日吉・矢上・三田・SFCの4キャンパスに常設しました。また、2025年10月1日～12月31日には、回収量上位者に慶應パーカー、カレッジバッグ、ルーズリーフ等を贈呈するイベントも開催しました。結果として、昨年度2,841個であった回収量を12,000個にまで伸ばすことができ、学生の意識と行動が習慣化してきていることがうかがえました。